

新規採用・削除医薬品等通知

新規採用医薬品通知

(薬品名)	ツイミーグ錠 500mg	市販直後調査 2021年9月～2022年3月
(英名)	Imeglimin Hydrochloride	
(規格・含有量)	1錠中イメグリミン塩酸塩 500mg 含有	
(一般名)	イメグリミン塩酸塩	
(メーカー名)	大日本住友製薬株式会社	
【薬価収載日】	2021年8月	
【薬価】	34.40円	
【薬効コード】	3969	
【薬効分類名】	糖尿病用剤	
効能・効果	2型糖尿病	
用法・用量	通常、成人にはイメグリミン塩酸塩として1回1000mgを1日2回朝、夕に経口投与する。	
禁忌	<p>本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者</p> <p>重症ケトーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1型糖尿病の患者〔輸液、インスリンによる速やかな高血糖の是正が必須である。〕</p> <p>重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者〔インスリン注射による血糖管理が望まれるので本剤の投与は適さない。〕</p>	
相互作用	<p>血糖降下作用が増強されるおそれ 糖尿病用薬；インスリン製剤、スルホニルウレア剤、速効型インスリン分泌促進薬、α-グルコシダーゼ阻害剤、チアゾリジン系薬剤、DPP-4阻害剤、GLP-1受容体作動薬、SGLT2阻害剤等</p> <p>血糖降下作用を増強する薬剤；β-遮断薬、サリチル酸剤、モノアミン酸化酵素阻害剤等</p> <p>血糖降下作用が増強および消化器症状の発現のおそれ ビグアナイド系薬剤</p> <p>血糖降下作用が減弱されるおそれ 血糖降下作用を減弱する薬剤；アドレナリン、副腎皮質ホルモン、甲状腺ホルモン等</p>	
副作用	重大な副作用 低血糖	

(薬品名)	アリケイス吸入液 590mg	市販直後調査 2021年7月～2022年1月
(英名)	Amikacin sulfate	
(規格・含有量)	1バイアル(8.4mL)中にアミカシン硫酸塩をアミカシンとして590mg(力価)含有	
(一般名)	アミカシン硫酸塩	
(メーカー名)	インスメッド合同会社	
【薬価収載日】	2021年5月	
【薬価】	42,408.40円	
【薬効コード】	6169	
【薬効分類名】	アミノグリコシド系抗生物質製剤	
効能・効果	適応菌種:アミカシンに感性のマイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC) 適応症:マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)による肺非結核性抗酸菌症	
用法・用量	通常、成人にはアミカシンとして590mg(力価)を1日1回ネブライザを用いて吸入投与する。	
禁忌	本剤の成分並びに他のアミノグリコシド系抗生物質又はバシトラシンに対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	腎障害及び聴力障害が発現、悪化するおそれ ループ利尿剤(エタクリン酸、フロセミド、アゾセミド等) 腎障害及び聴器障害が発現、悪化するおそれ 腎毒性及び聴器毒性を有する薬剤;バンコマイシン、エンピオマイシン、白金含有抗悪性腫瘍剤(シスプラチン、カルボプラチン、ネダプラチン)等 呼吸抑制があらわれるおそれ 神経筋遮断剤、麻酔剤、筋弛緩剤(ツボクラリン、パンクロニウム臭化物、ベクロニウム臭化物、トルペリゾン、A型ボツリヌス毒素製剤)等 腎障害が発現、悪化するおそれ 腎毒性を有する薬剤;シクロスポリン、アムホテリシンB等	
副作用	重大な副作用 過敏性肺臓炎、気管支痙攣、第8脳神経障害、急性腎障害、ショック、アナフィラキシー その他 耳鳴、疲労、咳嗽、発声困難、呼吸困難、喀血、口腔咽頭痛	

削除医薬品通知

- 12月1日より
ザンタック注射液 50mg/2mL

供給不足による医薬品変更通知

変更後	変更前
<ul style="list-style-type: none"> ● <u>在庫消尽後</u> コロネル細粒 83.3% 1.2g ヒート フルコナゾールカプセル 100mg「日医工」 	ポリカルボフィル Ca 細粒 83.3%1.2g ヒート「日医工」 フルコナゾールカプセル 100mg「サンド」

後発品医薬品採用通知

変更後	変更前
● <u>12月1日より</u> フルニトラゼパム錠 2mg「アメル」	サイレース錠 2mg

規格追加医薬品通知

● <u>12月1日より</u> テリルジー200 エリプタ 30 吸入用
--

適応追加通知

ジャディアンス錠 10mg	<p>【効能・効果】</p> <p>2 型糖尿病</p> <p>慢性心不全 ただし、慢性心不全の標準的な治療を受けている患者に限る。</p> <p>【用法・用量】</p> <p>〈2 型糖尿病〉</p> <p>通常、成人にはエンパグリフロジンとして 10mg を 1 日 1 回朝食前又は朝食後に経口投与する。なお、効果不十分な場合には、経過を十分に観察しながら 25mg1 日 1 回に増量することができる。</p> <p>〈慢性心不全〉</p> <p>通常、成人にはエンパグリフロジンとして 10mg を 1 日 1 回朝食前又は朝食後に経口投与する。</p>
---------------	---

<p>キイトルーダ 点滴静注 100mg</p>	<p>【効能・効果】</p> <p>悪性黒色腫</p> <p>切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌</p> <p>再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫</p> <p>がん化学療法後に増悪した根治切除不能な尿路上皮癌</p> <p>がん化学療法後に増悪した進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性(MSI-High)を有する固形癌 (標準的な治療が困難な場合に限る)</p> <p>根治切除不能又は転移性の腎細胞癌</p> <p>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌</p> <p>根治切除不能な進行・再発の食道癌</p> <p>治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性(MSI-High)を有する結腸・直腸癌</p> <p>PD-L1 陽性のホルモン受容体陰性かつ HER2 陰性の手術不能又は再発乳癌</p> <p>【用法・用量】</p> <p>〈根治切除不能な進行・再発の食道癌〉</p> <p>フルオロウラシル及びシスプラチンとの併用において、通常、成人には、ペムブロリズマブ(遺伝子組換え)として、1回 200mg を 3 週間間隔又は 1 回 400mg を 6 週間間隔で 30 分間かけて点滴静注する。がん化学療法後に増悪した PD-L1 陽性の根治切除不能な進行・再発の食道扁平上皮癌に対しては、本剤を単独投与することもできる。</p> <p>〈他〉省略</p>
<p>5-FU 注 1000mg 250mg</p>	<p>【効能・効果】</p> <p>下記疾患の自覚的並びに他覚的症状の緩解</p> <p>胃癌、肝癌、結腸・直腸癌、乳癌、膵癌、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌</p> <p>ただし、下記の疾患については、他の抗悪性腫瘍剤又は放射線と併用することが必要である。</p> <p>食道癌、肺癌、頭頸部腫瘍</p> <p>以下の悪性腫瘍に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法</p> <p>頭頸部癌、食道癌</p> <p>レボホリナート・フルオロウラシル持続静注併用療法</p> <p>結腸・直腸癌、小腸癌、治癒切除不能な膵癌</p> <p>【用法・用量】</p> <p>〈頭頸部癌及び食道癌に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法の場合〉</p> <p>他の抗悪性腫瘍剤との併用療法において、通常、成人にはフルオロウラシルとして 1 日 1000mg/m(体表面積)まで 2 を、4~5 日間連日で持続点滴する。投与を繰り返す場合には少なくとも 3 週間以上の間隔をあけて投与する。本剤単独投与の場合には併用投与時に準じる。</p> <p>なお、年齢、患者の状態などにより適宜減量する。</p> <p>〈他〉省略</p>

<p>ハーセプチン注射用</p> <p>150</p> <p>60</p>	<p>【効能・効果】</p> <p>HER2 過剰発現が確認された乳癌</p> <p>HER2 過剰発現が確認された治癒切除不能な進行・再発の胃癌</p> <p>HER2 陽性の根治切除不能な進行・再発の唾液腺癌</p> <p>【用法・用量】</p> <p>HER2 過剰発現が確認された乳癌には A 法又は B 法を使用する。</p> <p>HER2 過剰発現が確認された治癒切除不能な進行・再発の胃癌には他の抗悪性腫瘍剤との併用で B 法を使用する。</p> <p>HER2 陽性の根治切除不能な進行・再発の唾液腺癌にはドセタキセル製剤との併用で B 法を使用する。</p> <p>A 法: 通常、成人に対して 1 日 1 回、トラスツズマブ(遺伝子組換え)として初回投与時には 4mg/kg(体重)を、2 回目以降は 2mg/kg を 90 分以上かけて 1 週間間隔で点滴静注する。</p> <p>B 法: 通常、成人に対して 1 日 1 回、トラスツズマブ(遺伝子組換え)として初回投与時には 8mg/kg(体重)を、2 回目以降は 6mg/kg を 90 分以上かけて 3 週間間隔で点滴静注する。なお、初回投与の忍容性が良好であれば、2 回目以降の投与時間は 30 分間まで短縮できる。</p>
<p>オブジーボ点滴静注</p> <p>240mg</p> <p>120mg</p> <p>20mg</p>	<p>【効能・効果】</p> <p>悪性黒色腫</p> <p>切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌</p> <p>根治切除不能又は転移性の腎細胞癌</p> <p>再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫</p> <p>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌</p> <p>治癒切除不能な進行・再発の胃癌</p> <p>切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫</p> <p>がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性(MSI-High)を有する結腸・直腸癌</p> <p>がん化学療法後に増悪した根治切除不能な進行・再発の食道癌</p> <p>食道癌における術後補助療法</p> <p>【用法・用量】</p> <p><切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌、治癒切除不能な進行・再発の胃癌></p> <p>通常、成人にはニボルマブ(遺伝子組換え)として、1 回 240mg を 2 週間間隔又は 1 回 480mg を 4 週間間隔で点滴静注する。</p> <p>他の抗悪性腫瘍剤と併用する場合は、通常、成人にはニボルマブ(遺伝子組換え)として、1 回 240mg を 2 週間間隔又は 1 回 360mg を 3 週間間隔で点滴静注する。</p> <p><がん化学療法後に増悪した根治切除不能な進行・再発の食道癌、食道癌における術後補助療法></p> <p>通常、成人にはニボルマブ(遺伝子組換え)として、1 回 240mg を 2 週間間隔又は 1 回 480mg を 4 週間間隔で点滴静注する。ただし、食道癌における術後補助療法の場合は、投与期間は 12 ヶ月間までとする。</p> <p><他>省略</p>